

科目名：人体と薬理 (Pharmacology) 履修年次/時期：1 年次 後期 授業形態：講義 担当教員：横山史織 (実務経験あり)		必	2 単位 (90時間)
学修目的	薬物療法において、チーム医療による看護師・医師・薬剤師の連携が、安全かつ有効な医療をもたらし、患者の早期回復につながる。とくに薬物療法における看護師の役割には、①誤薬の防止、②治療効果の確認、③有害作用の早期発見と予防、④服薬に関する患者指導、⑤患者・家族に対する治療の説明、などがある。薬物療法への理解を深め、得た知識を看護の実際によりよく活かせるよう薬理学の基礎的理論を修得する。 CP2.3.4 に関連する。科目 No.KSI-116		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2) 優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
(3) 看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。		○	
◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP			
到達目標	【1部 薬理学総論】 ① 第1章「薬理学を学ぶにあたって」：薬物とはなにか。薬理学のなりたちについて説明できる。 ② 第2章「薬理学の基礎知識」：薬の作用するしくみ、薬の体内の挙動について説明できる。 【2部 薬理学各論】 ① 第3章「抗感染症薬」：抗感染症薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。 ② 第4章「抗悪性腫瘍薬」：抗悪性腫瘍薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。 ③ 第5章「免疫治療薬」：免疫治療薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。 ④ 第6章「抗アレルギー薬・抗炎症薬」：アレルギーおよび炎症時に用いる薬物の作用機序と有害作用について説明できる。 ⑤ 第7章「末梢神経系での神経活動に作用する薬」：末梢神経に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。 ⑥ 第8章「中枢神経系に作用する薬」：中枢神経系に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。 ⑦ 第9章「循環器に作用する薬物」：心臓・血管系に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。 ⑧ 第10章「呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬」：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬の作用機序と使用目的および有害作用について説明できる。		

	<p>㉟ 第 11 章「物質代謝に作用する薬物」：糖尿病、甲状腺機能障害、骨粗鬆症の治療に用いられる薬物の作用機序と使用法について説明できる。</p> <p>㊱ 第 14 章「漢方薬」：漢方薬の臨床応用・有害作用について説明できる。</p> <p>㊲ 第 15 章「消毒薬」：消毒薬の分類と特徴および臨床応用について説明できる。</p>
授業概要	薬理学の総論および各論の基礎的知識をつけ、薬物治療の目指すもの、薬物の作用機序を学ぶ。薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱いと管理について理解する。
評価方法	定期試験 90% 授業の参加態度 10% *練習問題は到達目標の到達度を自覚させる目的で各講義時間内に実施する。また、練習問題で間違った箇所は自学自習（予習・復習）すること。 試験に対するフィードバックは掲示で行う。
予習・ 復習時間	【予習】2時間 【復習】2時間
教科書	① 系統看護学講座 「専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進・3」医学書院 ② 「イラストで分かる歯科医学の基礎」永末書店
参考書	なし
オフィス アワー・ 連絡先	横山史織 月～金曜日 9：00 - 17：00 第一研究棟 社会歯科学講座災害歯科学分野 s.yokoyama@kdu.ac.jp 不在時はメールを入れてください。

科目名：病理学 (Pathology) 履修年次/時期：1 年次後期 授業形態： 講義 担当教員：窪田展久（実務経験有）		必	1 単位 (45 時間)
学修目的	病理学総論の講義では、疾病の原因、発生機序、経過および転帰などを主に形態学の面から学習し、病理学に対する理解を深め、看護師として適切な医療業務を行うための基本的知識を身につける。 そのために、様々な疾病をカテゴリーごとに分類整理して、疾病の原因や成り立ち、疾病に起因する細胞や組織の変化や疾病の人体への影響を系統的に学習していくことにより、健康破綻した身体の理解を深め、専門分野の看護学の理解に役立てる。 DP2,3 および CP2,3,4 に関連する。 科目 No.KSI-117		
この科目が目的としている DP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3) 社会の動向に関心を持ち、学び続ける力を有する。	○
	3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	
(2) 優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。			
(3) 看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。		○	
◎： この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○： この講義・演習・実習と関連がある DP			
到達目標	①病理学を学ぶ意義、異なる原因による病変の分類、臨床医学との関連を理解する。 ②先天異常の発生原因および形態的变化を理解する。 ③障害性刺激によって受動的に生じる生体側の機能的・形態的な病的变化について、肉眼的および組織学的変化を理解する。 ④循環障害による種々の病的状態の肉眼的・組織学的変化およびその転帰を理解する。 ⑤生体の防御反応である炎症の基本的概念について修得する。さらに高次の防御反応である免疫に関する基本的概念および自己免疫疾患と感染症について修得する。 ⑥腫瘍の発生原因、特徴、分類、疫学の総論的理論を理解する。 ⑦加齢に伴う臓器や組織の形態的、機能的变化について理解する。 ⑧個体の死とは何か説明できる		
授業概要	疾病の基本的な原因と病態の発生過程を病理学的観点より把握するために、奇形や退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍などのカテゴリーに関する知識を学習する。病態と治療論の礎とする。		
評価方法	学期末試験 100% 試験に対するフィードバックは掲示で行う。		
予習・復習時間	【予習】 1.9 時間 【復習】 1.9 時間		
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 第6版		

参考書	カラーで学べる病理学 渡辺照男編 ノーヴェルヒロカワ 集中講義 病理学 メジカルビュー社
ハイパー 連絡先	月～金 16:30～17:00, 附属病院9階 ラウンジ n.kubota@kdu.ac.jp (必ずメールで事前に連絡をして下さい)